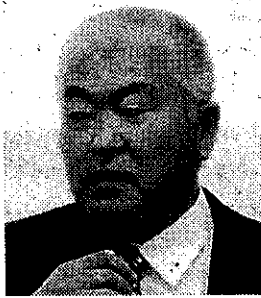


歩合制から時給制へ

中田商事 ■ 最新ロジゼミで事例発表



時間給導入を説明する中田社長

【愛知】中田商事(中田純一社長、三重県伊賀市)は2月24日、名古屋市で行われた三菱電機レジネスシステム中部支社(神谷茂支社長、名古屋市中区)主催の「最新ロジスティクスセミナー」で、時間制賃金導入について事例発表した。(星野 誠)

社員・会社にメリット

2010年4月、時間外労働の割増賃金率引き上げなどを定めた改正労働基準法が施行されたことを受けて、中田商事は、従来の歩合制から時間制賃金への移行に取り組んできた。

中田社長は「中小企業は3年間の猶予期間があったが、3年後に慌てても手遅れになる。なるべく早く社内体制を確立するため、改正労働基準法の施行と同時に導入に着手した」と説明。

さらに、「デジタルタコグラフのデータを活用し、綿密な時間給のシミュレーションも行った。結果的に給与がアップし、経営を圧迫することも覚悟した。社員に有利でなければ移行は難しい」と述べた。

中田氏は①有給休暇の活用②1車1人制からローテーション制への移行③若年・女性・シルバー人材の適材適所配置——の3点をポイントに挙げ、「人事考課制度もデータ主体に変更し、明確な基準を設けた。

現場とのコミュニケーションを加味し、評価の精度を上げた」と振り返った。

セミナーには、愛知県や三重県など中部地区のほか、関東エリアからもトラック事業者が参加。質疑応答では、中田氏に対し「待ち時間は労働時間とみなすのか」「ドライバーのモチベーションに変化はあったか」「年功で賃金に差は

つけないのか」などの質問が相次いだ。

質問に一つひとつ丁寧に答えた上で、中田氏は「時間給は運賃と切り離して考えることができるため、給与計算も楽になった。時間給導入はそれなりの労力を伴うが、わが社では良い社内循環につながっている」と力説した。